

# 濃尾地震の慰霊碑、HPに



濃尾地震の慰霊碑マップの公開を始めた荒川宏さん。後ろの石碑も掲載している＝岐阜市東川手

1891年の濃尾地震から28日で133年を迎えるのを前に、県内の防災関係者有志でつくる「災害アーカイブぎふ」のホームページで、各地に残る慰霊碑情報の公開を始めた。23カ所の石碑や慰霊施設の位置が電子地図上に表示され、外観や碑文の内容を知ることができる。「身近な場所で起きた災害を知るきっかけにして」と利用に期待する。

(堀尚人)

## 県内23カ所、防災士・荒川さん(岐阜市)地図表示

公開したのは、防災士の荒川宏さん(66)＝岐阜市一松道。2011年10月、

本紙に掲載された濃尾地震から120年の特集「県内記念碑をたどる」を読んだのをきっかけに慰霊碑巡りを始めた。

山の中で埋もれかけた碑も。淡墨桜に近い本巣市根尾市場の「震災犠死者之碑」には「眼流悲涙」と45人の犠牲者を悼む思いが刻まれ、羽島市竹鼻町の竹鼻別院にある「大震災記念之碑」には「屋瓦如雨地裂水沸」と家屋被害や地

割れ、液化化を思わせる状況が描写されていた。「石碑は大昔の出来事をきちんと伝えてくれていて。伝えてもらったありがたさを感じた」と荒川さん。建設コンサルタント会社で土砂災害ハザードマップ作成に向けた現地調査に携わっており、生活圏の過去の災害や地形を知ること、被災に役立ててほしいという思いが、今回の公開につながった。

ホームページでは、「明治24(1891)年濃尾震災を学ぶ」＝QRコード＝の題名で、西濃や東濃を含む8市2町の石碑の写真と

## 碑文から学び「備えを」

所在地、各面の碑文を掲載。岐阜市若宮町の慰霊施設「震災記念堂」も紹介する。愛知県一宮市の石碑など未掲載分も順次追加していく。

「8月に出版された南海トラフ地震の臨時情報では、米の品薄が社会現象になるなど地震への意識が高まった。一過性に終わらせるのではなく、身近な石碑を訪ねて過去にどんな災害があったかを知り、災害への備えにつなげてほしい」と呼びかける。

濃尾地震は現在の本巣市根尾を震源にしたマグニチュード(M)8.0の世界最大級の内陸直下型地震で、全国で7273人、県内で約5千人が亡くなった。

## 27、28日に講演と法要

濃尾地震の犠牲者を慰霊する岐阜市若宮町の震災記念堂で、27、28の両日、防災講演と法要がある。参加無料。

27日は午後2時から、市都市防災政策課の宇野仁さんが、「地震や洪水への備え」と題して講演。発生日の28日は午前10時から祥月命日法要があり、本願寺布教使の箕浦良信祐蓮寺住職が「阿弥陀様とは」の演題で話す。問い合わせは記念堂、電話058(262) 0431。

